

企業支援 ウォッチ

福岡県ゆかりのメダリストの栄光を 称える記念碑贈呈式が行われました

去る令和4年8月1日に福岡県庁1階ロビーにて、オリンピック・パラリンピック競技大会で活躍した福岡県ゆかりのメダリストの栄光を称えるため、制作された記念碑の贈呈式が行われました。

贈呈式には寄贈者として本会理事である山田登三雄株式会社九州電化代表取締役会長及び井手隆二株式会社オオサカネーム代表取締役社長が、受贈者として服部誠太郎福岡県知事、桐明和久福岡県議会議員、県ゆかりのオリンピックとしてメキシコオリンピック銀メダリストの君原健二氏、ソウルオリンピック金メダル・バルセロナオリンピック銀メダリストの礎眞一氏、ほか数名の県議会議員を迎え、執り行われました。

贈呈のきっかけは山田理事と県庁職員とのたわいのない会話から。「競技団体やメダリスト個人の記念碑が設置されることは多くあっても、県ゆかりのメダリストを一度に見ることができない記念碑がない」との話を聞いた山田理事。「それなら作って、贈呈しよう」と早速記念碑制作を行うことを決め、取引関係にあり、高い金属加工技術を有するオオサカネームの井手社長に相談したところ、快諾。2社で共同作成することで実現しました。山田理事長は、このような困難な事業を引き受けてくれた井手社長に感謝が尽きないと話します。

記念碑制作は、互いの業務が終わって集まり、デザインや材質、加工方法などの見直しを何度も行い、試行錯誤の上完成までに2か月を要しました。



挨拶する山田理事

こだわりは、可動できることと金属加工とめっき加工で作成された豪華な輝き。可動できることで、様々な協議会会場等で展示でき、金属とめっきで作成されたことで色あせることなく、栄光を称えることができるものとなりました。

山田理事は、「スポーツは人の心を高揚させたり、前向きにしたり、心を揺さぶる効果がある。福岡県もタレント発掘事業などでも大きな成果を残すなど、スポーツ県である福岡県に何かお手伝いをできればと考えていた。この記念碑を見て、多くの子供たちが『記念碑に自分の名前を刻みたい』と思い、夢実現に向かって挑戦してくれるなら、これほど嬉しいことはない」と語りました。

記念碑はしばらくの間は福岡県庁1階ロビーに、その後アクション福岡に移動・展示されるということです。



記念碑を贈呈